

# 平和へ祈り 世代超え

## 「核なき世界よ、早く」

### 長崎 原爆の日

74年前。敗戦間近の日本に米軍が落とす二つ目の原子爆弾は、きのこ雲でナガサキの夏空を覆い、瞬時に街を焼き尽くした。生き残った人々の心や体に深い傷痕は今も残る。新しい時代を迎えた中でこの「8月9日」。肉親の最期を思っ涙を流し、言葉を紡ぐ被爆者も、記憶を受け継ぎ次を担う若者も祈りは同じ。核兵器なき平和な世界よ、一日も早く。

——面参照

被爆者や遺族らは、最愛の人に思いをほせ、花を供えて手を合わせた。「原爆を再び使わせない」。74年前の「あの日」と同じように夏の太陽が照りつけた9日、長崎の市民らは核軍縮を巡る世界情勢に危機感を募らせ、日本政府に核兵器廃絶の先頭に立つよう求めた。

長崎市松山町の平和公園には、犠牲者を悼み、平和を願う人たちが次々と訪れた。爆心地から約1・5キロで被爆した長崎市の河村民子さん(80)は防空壕(こご)で強烈な光を感じ「外に出ると人が焼かれるにおいがした」。母や祖母の命が奪われ、自身も甲状腺機能の不調に苦しんでお



「原爆は二度と落とさないでほしい」と静かに言った。3歳で原爆に遭った福岡市

「ハトは爆弾をおとさない。ネコも爆弾をおとさない。ニンゲンだけだな、爆弾をつくっておとすのは」。米国出身で広島市在住の詩人アーサー・ビナードさん(52)が9日、長崎市の原爆資料館で広島原爆をモデルに制作した紙芝居「ちっちゃいこえ」を流ちょうな日本語で披露した。劇中で語り部を務める被爆した黒猫を演じ、集まった親子連れら約80人を物語に引き込んでいた。

ビナードさんは、きのこ雲の絵がプリントされたTシャツを着て登場し、原爆

南区の原野正典さん(77)は爆心地近くで命を落とした父親を思い、目に涙を浮かべた。唯一の被爆国が核兵器禁止条約に署名、批准しないことを疑問に感じるといい「日本の参加が、核兵器や戦争を世界からなくす第一歩になるはずだ」と訴えた。

長崎市の被爆2世松田和子さん(72)は爆心地公園で、犠牲になった祖父母を追悼した。遺骨は見つからず、骨つぼには写真だけという。「毎年、涙を流して爆心地でお参りしていた亡き母の気持ちを考えてせつない。日本は核廃絶を保有国にアピールしてほしい」と目を伏せた。

爆心地に近い浦上天主堂では、早朝から追悼ミサが開かれ、オルガンの演奏や聖歌が響いた。集まった信徒ら約300人に青色のスタンドグラスの光りが降り注ぎ、鎮魂の祈りに包まれた。

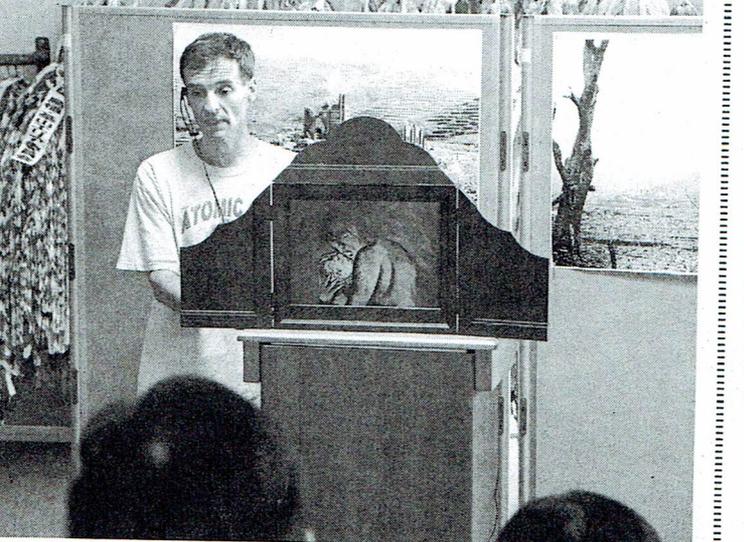
長崎市の辻本美枝子さん(90)はミサの最中、原爆で亡くなった四つ上の兄を思いハンカチで何度も目頭を押さえた。「優しかった兄は高熱を出し「父さん死にたくない」と言っって亡くなった。戦争は本当に嫌だ」。中距離核戦力(INF)廃棄条約が失効した米国とロシアを挙げ「核の怖さを分かってくれているのか」と舌を落とした。

### 「爆弾落とすだけ」

爆を誇るのが米国では普通の価値観。でも投下が正しいとは思えない。被爆地とのギャップを埋めるのではなく、米国の価値観を壊したい」と訴えた。

母親と訪れ、紙芝居に見入っていた長崎市の小学2年亀本純蓮さん(7)は「戦争は絶対にしてはいけない」とよく分かった」と話していた。

紙芝居は、被爆の惨状を苗子丸木立里・俊夫妻の



## 借金坊

最高裁が初判断

伯父が残した債務を放棄しないまま父親になった子どもはいったま

継続放棄すれば返済を免か。疎遠な親族の借金ないつちに背負ってトになりがちな事例が争訴訟の上告審判決で、2小法廷は9日、「子どもが債務の相続人になっ

## 高校の統合協議会を初開

飯能市と

具教委の「魅力ある校」づくり第1期実施(案)の中で提案を

続が始まったことを、時「から3カ月(熟慮以内)と規定。今回のよ